

中高一貫教育だより

事務局：軽米町教育委員会・軽米中学校・軽米高等学校

今年度の交流授業も11月で終了しました。また、12月には理科の出前授業を実施しました。今回は英語の交流授業と理科の出前授業の様子をお伝えします。

<英語の交流授業>

中学3年生を対象とした英語の交流授業全10回が終了しました。8月からの交流授業では英検3級レベルの英作文づくりに取り組みました。11月10日(火)～13日(金)は1日1コマずつ軽米高校の石村隆彦先生が主担当としてディベート活動を行いました。主な活動は以下の通りです。



10日 (火)	高校1年生のディベートの様子を動画で見る。／4日間のスケジュールの確認をする。／動画とスクリプト(原稿)を使ってディベートの方法を理解する。／キーフレーズの使い方を練習する。／ロールプレイで練習する。
11日 (水)	前回の復習をする。／本番用のトピックについて賛成と反対の理由を日本語で考える。／考えた理由をグループ・クラスでシェアする。
12日 (木)	前回考えた日本語の理由(各グループ4つずつ)を英語にする。／石村先生に添削してもらう。／英語に直した文をクラス内でシェアする。／英文の音読練習をする。
13日 (金)	前回作った英文の意味を再確認し、音読の練習をする。／ディベートの型に沿って、キーフレーズと理由を組み合わせて練習する。／ピンポンディベートをする。

このディベート活動を行ったあと、生徒を対象とした事後アンケートを行いました。87%の生徒が「英語の話す力、聞く力を伸ばすことが出来たと実感した」と回答しました。また71%の生徒が「中学校で学んだ英語を今後どのように活用していくかについて考えたり、気づくことができた」と答えてくれました。以下は、生徒の感想の一部です。

普段使わないような単語を会話に使ったりして書けなかった単語や新しい単語を身につけることができた。積極的に話すこと書くことを大切にしていきたい。(3A)

ディベートによって話す、聞く、書くことを伸ばすことができた。相手の理由を聞いてそれを発言するのが少し難しいのかなと思った。(3A)



良い点悪い点などを考えてから英語に直すことで、英語を書く力がついたと思うし、たくさん英語を話せてよかった。(3B)

英語で討論してみて、文の組み立て方が英作文に似ていたのが勉強になった。(3B)





<担当者（石村隆彦先生）からのコメント>

今年度も軽米中学校のみなさんと一緒に英語を学ぶことができ、とても良かったです。

特に、集中講義では、ディベートの授業を通じて、物事の良い面と悪い面の両面を考える思考力や、それを基にした英語のスピーキング力も向上することができました。来年度、中学生のみなさんと軽米高校で、新入生としてのみなさんに再び会えることを楽しみにしております。これまで本当にありがとうございました。

<理科の交流授業>

12月2日（水）中学2年生を対象に「豚の目の解剖実験」を行いました。昨年に引き続き、軽米高校からは鈴木麗先生が中学校を訪問し、中学校の宮本裕之先生と共同で実験をしました。生徒の感想の一部を紹介します。

最初はすごく嫌だったけど、やっているうちに楽しくなったのでよかったです。人の目と豚の目は似ていることを先生から聞いたとき、「人の目もこんななんだ」と思いました。（2A）

目を解剖してみて、神経の所に網膜が集まっていることを初めて知りました。さわってみると、思ったよりも柔らかくて切り分けるのがとても大変でした。とても貴重な体験ができてよかったです。（2A）



目の形が思っていたよりもつぶれた形をしていて、中にある水晶体がピントの調整をしていることがわかった。また、視神経が真ん中より寄っていることがわかった。（2B）

今日初めて目を解剖してみて、実際の大きさが自分が思っていたものより大きくてびっくりしました。目の中がほとんどゼリー状だということも知り驚きました。虹彩や水晶体の役割を丁寧に詳しく教えて頂いたので、この貴重な体験を忘れないようにしたいです。（2B）

<担当者（鈴木麗先生）からのコメント>

他の中学校ではできない経験を提供したいと考え、豚の眼球の解剖を毎年実施しています。これができるのは中高が連携している軽米だからなのだと知っていただけたら幸いです。最初は抵抗感があった人も多いと思いますが、とりあえずやってみる中で徐々に慣れていったのではないのでしょうか。何事もやってみることが大事。「百聞は一見に如かず」です。本物に触れる経験からの学びを大切にしてほしいです。

